

令和2年4月20日

第1年保護者 各位

茨城県立波崎高等学校長 黒澤 義生
第1学年主任 沼尻 篤之

令和3年度 修学旅行アンケートの結果について

拝啓

陽春の候、保護者の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症による深刻な影響を抱えた中での学校活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

さて、この度の令和3年度修学旅行に関するアンケートにご回答をいただき誠にありがとうございます。その結果を報告させていただきます。

1. これまでの経緯

令和2年3月19日（木）令和3年度修学旅行候補地を方面ごとの修学目標と併せて新1学年会議で決定

4月 7日（火）第1回目の修学旅行アンケート用紙を配付

4月10日（金）休業措置のため、アンケート回収方法を本校 HP に公開

4月15日（水）第1回目結果を本校 HP に公開

投票結果

台湾9, グアム50, 北海道39, 大阪・広島31, 九州3, 沖縄27, その他2（鹿児島, 韓国）
同日、最多票方面が過半数を超えていないため、上位2方面での再投票実施を決定

4月17日（金）第2回目修学旅行アンケートの結果、グアム方面が最多票となる

それを受け、学年会議並びに修学旅行検討委員会を実施し、修学旅行地をグアム方面とし、今後の計画にあたることを決定した

2. 今後の日程

4月24日（金） 修学旅行取り扱い業者選定プレゼンテーション（教員13名、保護者3名）

※今後は保護者に向けて数回の説明会を開催する予定です。

3. 修学旅行の位置付け、ねらい

平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳、異文化理解などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行う行事であること。

ねらいとして、一番の目的は学びであること。北海道方面も、北の大地から見える日本の見え方や戦後日本の近隣諸国との関わり方、伝統文化を知る良い機会と考えていた。また、グアム方面も異文化理解や現地生徒との交流をする上で絶好の機会であると考え。諸外国と日本がどう関わり、それによって日本が世界から見てどういった立場であるのかを肌で感じてもらえ、また、キャリア教育の一環として個人旅行では体験できないような学習を主とした経験を積んでもらい、行事そのものが生徒一人ひとりの今後の人生を考える糧として役立てることができる力が養われることを期待する。

4. グアム修学旅行における学習目標

西太平洋のミクロネシアと呼ばれる地域に位置する最大の島グアムにおいて、歴史的建造物や教育施設を巡り、歴史上多様な文化が混じり合った独自の文化史を学ぶ。スペイン・日本・アメリカ等の国々の統治下にあった歴史の中で醸成された文化や成り立ち、戦禍中における国民感情や歴史、現在の日本との関わり方から日本に住む者として、これから生きる為の方向性と視野、高校生としての見聞を拓ける。

5. その他

今後の日程や修学旅行の行程等に関するお問い合わせは第1学年主任までお願いいたします。

問合せ先

担当 第1学年主任 沼尻

TEL 0479-48-0044